

大阪府 ロボット分野における地域産業クラスター計画の概要

1. 産業領域

府内企業ネットワークを核とするロボット産業領域

2. 対象エリア

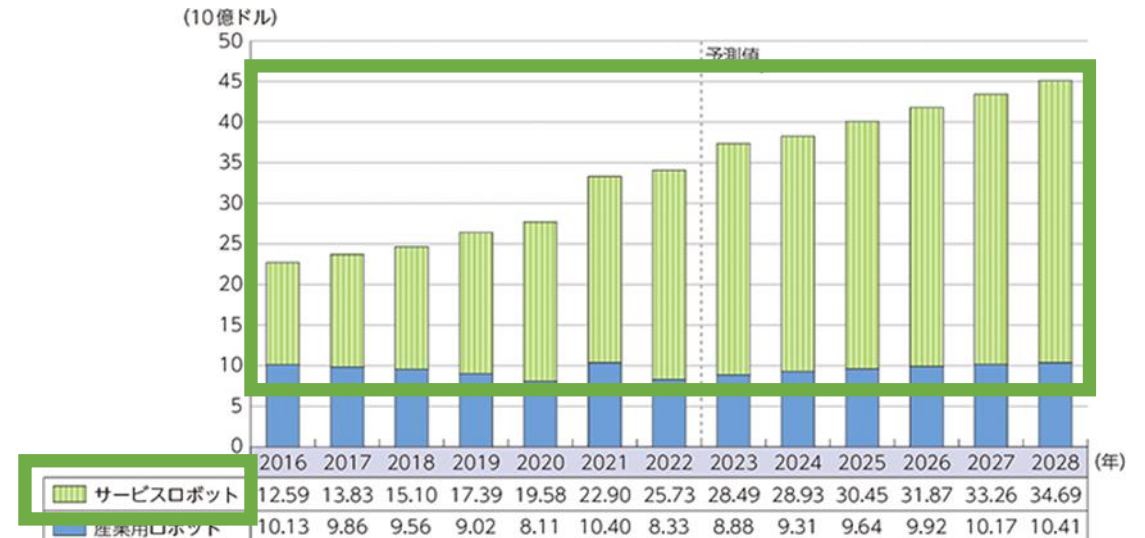
(1) 特にクラスター形成の核となる区域

全国でも数少ない、ロボット導入支援拠点であるIATC・IATC-Labが所在する大阪市等を中心とし、ロボット製造に必要となる「AI・プランニング」「認識技術」「センシング」「制御・駆動系」「材料・構造設計技術」「通信・クラウド」等の要素技術を有するものづくり企業等が集積する区域（大阪市地域、北大阪地域、東大阪地域、南河内地域、泉州地域）

(2) 計画推進の核となる企業

IATC・IATC-Labを運営する（一社）i-RooBO Network Forum等が参画する府内企業ネットワーク

【世界のロボット市場規模の推移及び予測】



【総務省 令和7年度版情報通信白書】

3. 目指す姿（目標）

(1) 現状の整理

- ・AIロボティクスの進展等を背景に、ロボット産業領域（特にサービスロボット分野）における世界市場は拡大傾向
- ・ロボット製造に必要となる要素技術を有する企業等が府内に集積

(2) 目指すべき目標

大阪府ロボット産業クラスターを形成し、ロボット産業領域における市場拡大を担うことで、大阪経済の成長に寄与する。

<KGI>

- ・付加価値増加額：ロボット製造業における付加価値額206億円（53億円（年3.0%）増）（2036年）
- ・官民設備投資額：117億円（2036年）
- ・産業人材育成数：2.7万人（2040年）

4. 勝ち筋

(1) 基本戦略

市場性、参入余地、府の強みを踏まえ、ターゲットを絞った取組を通じてオープンな開発環境を整備し、既存事業者に加え多くの企業の参入を促すことで、産業クラスターを形成

<ターゲット>

- ①ロボットを構成する機能・部品を独立した要素として分割し、これを組合せ・組換えにより活用する技術力の向上及びサプライチェーンの構築
- ②軽量化などの今後サービスロボットに求められるスペックの新素材開発
- ③AIとハードを融合させることによるソフト面の強化

5. 政策手段

(1) 投資促進に向けた課題

- ・ロボット産業領域への参入手法や参入メリットが不明確
- ・需要拡大が見込まれる多品種少量生産への対応が必要
- ・専門人材の確保が困難

(2) 講じるべき政策パッケージ

- ・ロボット産業領域に対する関心度を向上させ、新規参入（技術転用）を促す
- ・ビジネス化に向けたサポートなど、伴走・販路開拓支援等、一気通貫での支援体制の構築
- ・多様なプレイヤーが参加するオープンな開発環境や実証フィールドを提供し、水平分業によるロボット製造を支援
- ・新工業高校に設置される産官学連携拠点等での交流を通じた、教育環境の整備・提供



iRooBO (IATC)



iRooBO (IATC-Lab)